

## まえがき

森林には多くの動物が生息している。動物にとって森林は時に住処でもあり、時に食物を得る場ともなる、なくてはならない存在である。同様に、私たち人間も森林からは多くの恵みを得てきた。こういった森林の役割を難しい言葉でいえば、前者は「生物多様性保全機能」、後者を「物質生産機能」となる。時として、この2つはぶつかり合う機能、または全く関係がない機能であるように思われることもあるが、そんなことはないと考えている。動物は各時代における、人間と森林との関係、人間の野生動物への姿勢に敏感に反応してきた。そして、個体数をダイナミックに変化させ、それに応じて林業の加害の主役を交代させてきた歴史がある。一方で、中山間地から都市にかけての地域や脆弱な島嶼生態系では、分布を確実に広げる野生動物の存在や外来種の暗躍といった新たな野生動物問題が次々と現れている。それらの問題の解決にも、動物の生息場所である森林とその扱いには重要な役割が期待されている。21世紀の日本の森林には、第1次産業である林業が国土や生態系の維持と保全に貢献するとともに、森林の居住者である野生動物との共存を図ること、山から溢れ出る動物をとどめおくこと、外来種という驚異が引き起こす生態系の崩壊を最小限にすることが求められている。それらのためには、各動物の生態をよく理解したうえでの多種多様な保全策、防除策や、より広い視野での森林生態系の管理の一環としての野生動物の保護管理が絶えず求められる。本書はその一助になると、編者一同は強く感じている。

本書で扱う野生動物—日本の哺乳類—は、程度の差こそあれ、森林は重要な生息場所であり、森林と野生動物の管理は他の種や生態系、人間生活に大きく関わっている。

序章では、動物の住処としての森林、森林で動物が果たす役割、人間をめぐる森林と動物の関係について、森林と動物をめぐる様々な関係について概説した。

## まえがき

これに続く第1部の以降の章では、これまで林業の加害獣として扱われることが多かった野ネズミ類、ノウサギ類、ニホンジカ、ツキノワグマ、ニホンカモシカと、その生活が森林と強く関わっているコウモリ類に焦点を当てた。第1章では戦後しばらくの間の林業加害獣の主役であった野ネズミ類とノウサギ類を対象に、生態や被害状況、個体群動態のメカニズムと森林との関係などを豊富なデータをもとに紹介した。第2章ではニホンジカを対象に生態や生息状況の変遷のほか、ニホンジカ特有の問題である過増加とそれに伴う生態系への影響について、その背景やメカニズムのほか、管理の課題や展望についても解説した。第3章ではニホンカモシカを対象に、天然記念物という特殊性の背景とその扱いの変遷について、ニホンジカと対比させることで、わかりやすく解説した。また、近年のニホンカモシカがかかえる新たな問題についても多くのデータをもとに展開した。第4章ではツキノワグマを対象に、生態のほか、ツキノワグマ特有の問題である人身事故の発生やブナ科の結実豊凶と生態との関係についても、近年の研究の成果をもとに解説した。さらに、ツキノワグマをめぐる生物間相互作用についても紹介した。第5章ではコウモリ類を対象に、これまで包括的に紹介される機会が多くなかったコウモリと森林との関係について、近年の成果をもとに多角的な視点から解説した。

第2部では、農地、都市、島嶼の野生動物の問題と、そこでの森林と野生動物との関係に焦点を当てた。第6章では分布が拡大する野生動物の最前線である中山間地や都市での野生動物と森林の関係について解説した。農村から都市にかけてどのような問題が発生し、そのメカニズムや問題の背景について、1つ1つ丁寧に説明した。第7章では、都市部に残存する野生動物に焦点を当て、森林の分断化や都市化が野生動物に与える影響を実際の事例をもとに紹介した。第8章では脆弱な生態系である島嶼での野生動物の問題、特に在来種と外来種との関係を森林生態系の衰退という視点で、各地の事例を実際の対策とその効果を交えて、わかりやすく説明した。

第3部では、これからの野生動物管理を対象を当てた。第9章では一般的には多くの困難を伴う野生動物の調査であるが、近年の科学技術の発展に伴い、これまででは考えられないような量と質のデータが得られるようになった背景を紹介するとともに、そのデータの解析を行う様々な新たな手法について解説

した。第10章では今まさに大きな変換点を迎えつつある日本の林業、森林管理に焦点を当て、これからの森林と動物との関係や森林での野生動物管理の方向性について解説した。

本書を執筆、出版するにあたって、多くの方々にお世話になった。特に、情報および写真の提供、文献の紹介、データの使用、GIS解析、原稿の確認では、相澤章仁氏（第7章）、雨宮有氏（第2章）、新井大輔氏（第6章）、一般財団法人自然環境研究センターの職員の方々（第3章）、環境省自然環境局野生生物課鳥獣保護管理室の方々（第2章、第3章）、佐野明氏（第5章）、島田卓哉氏（第1章）、白井亮久氏（第7章）、中田圭亮氏（第1章）、文化庁記念物課天然記念物担当の歴代の方々（第3章）（五十音順）に多くのご協力をいただいた。また、共立出版株式会社の山内千尋氏、野口訓子氏には、本書を出版するにあたりご尽力いただいた。ここに、あわせて心よりお礼を申し上げる。

小池伸介，山浦悠一，滝 久智